



令和3年度（2021年度）

北海道・札幌市政策研究みらい会議

活動実績報告

令和4年（2022年）3月

目次



- 1 北海道・札幌市政策研究みらい会議の概要
- 2 令和3年度の活動方針
- 3 令和3年度メンバー
- 4 活動報告
 - (1) 会議等開催実績
 - (2) 各企画の取組実績
 - ア 実施した企画
 - ・性的マイノリティ職場理解促進事業
 - ・道×市による同志のための「WorkMashUp」
 - イ 未実施の企画
 - ・キッチンカー招聘による事業者応援事業
 - ・ワーケーション等による北海道市町村の応援・宣伝
- 5 まとめ ～今後の活動に向けて～

1 北海道・札幌市政策研究みらい会議の概要



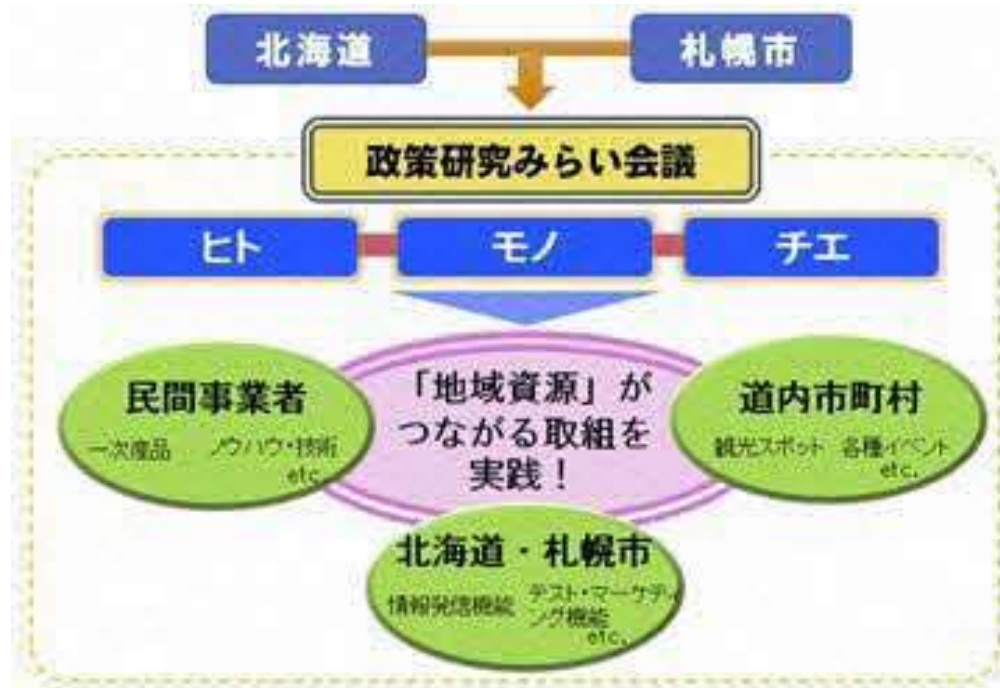
【位置づけ】

北海道知事と札幌市長が意見交換を行う「北海道・札幌市行政懇談会」において合意された、両組織の若手職員による分野横断的なプロジェクト

【目的】

両組織の未来を担う人的ネットワークの拡充を図るとともに、自由な発想による「北海道のより良きみらい」に資する活動を企画・実践

<イメージ図>



「地域資源の価値向上」や「交流人口の増加」といった北海道の発展につながる可能性を探求！



2 令和3年度の活動方針

背景

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、令和2年度は活動を休止
- ・令和3年度も感染は収束せず、ニューノーマル、ウィズコロナ時代へ

活動再開に向けて

- ・ 緊急事態宣言終了後に活動を開始（令和3年10月～）
- ・ 感染対策を実施して活動
 - ⇒メンバーの人数を制限（令和元年度：14人 令和3年度：9人）
 - 活動時はマスク着用や手指消毒、部屋の換気を実施 など

令和3年度の活動方針

- ・ 「少人数」かつ「短い活動期間」で実現できる内容を検討
 - ⇒人的ネットワークの拡充を主な目的とする。
- ・ 感染症対策を踏まえた企画・テーマ（ウィズコロナ）

3 令和3年度メンバー



北海道

総合政策部政策局	國井 貴友
総務部北方領土対策本部北方領土対策課	嶺岸 高行
総合政策部地域創生局地域戦略課	神谷 黎
教育庁総務政策局教育政策課	合浦 由祐
石狩振興局地域創生部地域政策課	保坂 啓太

札幌市

まちづくり政策局政策企画部企画課	高嶋 俊輔
経済観光局観光・MICE推進部観光・MICE推進課	内田 かおり
消防局清田消防署予防課	菅野 俊平
中央区保健福祉部保護二課	村川 功宜

4 活動報告

(1) 会議等開催実績



令和3年（2021年）

10月25日	第1回会議（メンバー顔合わせ、活動方針の共有）
11月16日	第2回会議（企画案についての意見交換）
12月2日	第3回会議（企画内容の決定）

令和4年（2022年）

3月4日	職員向けLGBT研修会 ・あなたの職場に『アライ』はいますか？
3月8日	みらい会議メンバー間での業務勉強会 ・道×市による同志のための「WorkMashUp」
3月24日	第4回会議（報告書の確認、活動の振り返り）

4 活動報告 (2) 各企画の取組実績

ア 実施した企画 性的マイノリティ 職場理解促進事業

目的 LGBTをはじめとする性的マイノリティへの理解・対応が求められている社会において、職場内での理解、配慮を進めることで誰もが働きやすい職場環境をつくり、道民・市民対応への活用を図るとともに、一人一人の職員が多様性と可能性を發揮できる職場を行政から模範として広めていく。

取組 ○職員向け研修会とその後のフォローアップで、性的マイノリティへの意識・理解を根付かせる。

職員向けLGBT研修会の開催

北海道・札幌市の職員に向けて、LGBTへの理解促進、当事者の困難などリアルな声を聞く場として、「あなたの職場に『アライ』はいますか？」を開催。

「LGBT研修会の概要」

実施日時：R4.3.4(金)18:00～19:40
 実施形式：Zoomを用いたオンライン形式
 講師：北海道LGBTネットワークの協力のもと、当事者の方2名をお招きした。
 内容：①講師による講話
 ②具体的な事例を用いたケーススタディ・ワークショップ



進捗

R3.12	▶ 講師依頼先の検討、打診
R4. 1	▶ 研修会の開催日、開催方法の検討
R4. 2	▶ 完全オンライン開催とすることの決定 ▶ 庁内イントラ及びメールにて、出席者募集
R4. 3	▶ LGBT研修会の開催、出席者アンケートの実施 ▶ チェックリストの作成、配布

職場環境改善へ向けた「チェックリスト」の作成

職場内で「ふとした時」に職員が再確認できるよう、職場・執務室内に掲示可能な**チェックリスト型のチラシ（ポスター）を作成。**



✓ 性的マイノリティの職員に対し、無自覚な言動をすることにより、「誰もが働きやすい職場環境」から遠ざかってはいないか

札幌市役所本庁舎各階エレベータホールの電子表示板にも掲示しました。



市役所EV

「研修会の詳細」

① 講師による講話

LGBTの基礎知識や、講師が職場で感じた困難など、実際の声や経験を聞くことで、「気づき」を得、「学び」を深めた。

② ケーススタディ・ワークショップ

「このような場面ではどういった配慮が必要か」、「自分たちからできる改善は何か」など、参加者同士の意見や各職場での取組等、交流した。



講師資料より

4 活動報告 (2) 各企画の取組実績

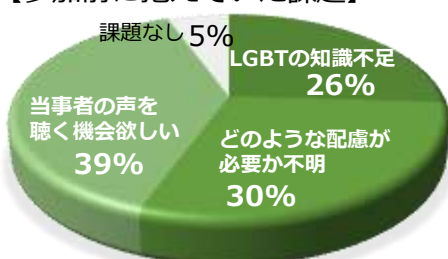
ア 実施した企画 性的マイノリティ 職場理解促進事業

取組による効果

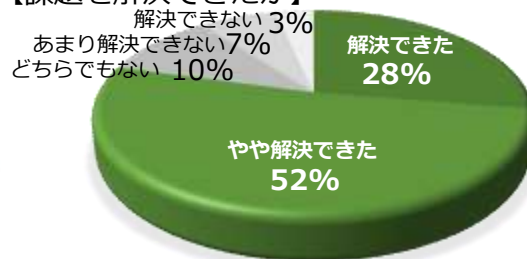
○ 取組の効果測定をするため、研修会出席者へアンケートを実施。

出席者アンケート結果・意見

【参加前に抱えていた課題】



【課題を解決できたか】



▶ 当事者の声を聴く機会を得たことで、**参加者の約8割は、事前に抱えていた課題解決のきっかけを掴んだ**ことと見受けられる。

【テーマについて理解が深まったか】



【あなたの職場で、理解や配慮は進んでいるか】



【本研修を受けてみて、自身の職場で実践したい行動】

- ・ 当事者の方のことも考えた道民・市民への対応や事業実施
- ・ ジェンダーレスな配慮ある行動の実践
- ・ LGBTの人で、「周りに言えずにいる人がいるかもしれない」と考えた上での言動を心がけたい
- ・ このような講座があれば、管理職にも参加をお奨めしたい

取組に対する考察

- 😊 北海道や札幌市の職場においても、理解や配慮が進んでいるとは言えない現状であり、本テーマに課題感を持って取り組んだことに大きな意義があった。
- 😊 「自分の周りにはいないので関係のない話」と考えている人が多い中、声をあげないだけでどれだけ多くの当事者が周りにいて、様々な困難を抱えているのかに気づき、自分事として考えるための良い研修となった。
- 😊 各職場で掲示できるチェックリスト型チラシを作成することにより、研修参加者のみが理解を深めることに留まらず、より多くの職員が本テーマについて「気づき」を得られるような取組とすることができた。

今後の展望

- 本研修参加者が、今回の学びをそれぞれの職場へ持ち帰り、各人の生き方や考え方を尊重する、能動的な「アライ」として、誰もが働きやすい職場づくりを牽引することを期待する。
- 職場においてLGBTに対する理解や配慮は進んでいないことから、今回作成したチェックリストの活用をもって、意識づけや理解が促進される職場環境構築の契機としたい。
- 全道各地から多くの職員が受講できる結果となった、完全オンライン開催の試みは、今後のみらい会議の取組に、多くのことを活かすことができる試金石となった。

4 活動報告 (2) 各企画の取組実績

ア 実施した企画 性的マイノリティ 職場理解促進事業

○新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮し、Zoomを使ったオンライン形式にて研修を開催した。



研修会当日

研修開始

- ✓ 司会進行
- ✓ 研修会の趣旨説明



講師講話



グループワーク

- ✓ 講師は担当グループへ参加
- ✓ 事務局も参加



質疑応答

- ✓ LGBT研修の依頼先窓口も周知・PR

研修終了

- ✓ お疲れ様でした

事前準備

- ✓ 講師アカウントはホスト設定
- ✓ グループワーク不参加者の確認



グループワーク準備

- 不参加者を考慮した人数から、A~Fの6グループを設定
- 各アカウント、グループ振分け設定
- 各講師の担当グループを確認、依頼

グループワークチェック

- ✓ A~F6グループ全部のチェック
- ✓ 振分けが漏れて、参加できていない人がいないか

進捗確認



- ✓ 終了時刻まで逆算し、グループワーク時間管理
- ✓ まとめ

結果

- 😊 指定した会場はなく、移動時間もかからないことから、研修が受講し易くなった。
- 😊 全道各地から、所属・所管業務問わず、多種多様で多くの職員の受講が可能となった。
- 😊 感染症の不安なく、自宅でも職場でも、外出先でも各々の置かれている環境で受講可能。
- 😞 受講の可否が、各々のネット環境に因ってしまう。
- 😞 グループワークの振分けやアカウント設定など、対面開催時と大きく違うため、事前準備に綿密さが必要。
- 😞 事務局・講師側及び受講者側で全ての人が、オンライン操作をマスターしているわけではないため、受講中の機材トラブル等に迅速に対応できない場合がある。
- 😞 全グループワークや進行時の様子など、一会場で行う場合より把握できる情報量が少ないため、細かく想定しておく必要があった。

研修の目的による「使い分け」や、対面+中継の「ハイブリッド」など、オンラインの利点を活かす可能性が広がった。

4 活動報告 (2) 各企画の取組実績

ア 実施した企画 コロナ禍において工夫した点 (打合せ)

打合せにおける取組

○新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮し、グループミーティングは、すべてメールもしくはZoomを使ったオンライン形式にて実施した。

取組の経過

R3 12/15	グループミーティング (GM) ～LGBT研修会講師謝金、 キッチンカー庁舎使用許可 など	オンライン
12/17	北海道LGBTネットワークとの打合せ	対面
R4 1/5	GM～キッチンカー募集時、問合せ先 など	オンライン
1/12	GM～キッチンカー応募条件、決裁 など	オンライン
1/19	GM～キッチンカー募集要項、募集期間 など	オンライン
1/26	GM～LGBT研修会開催日、開催方法 など	オンライン
2/4	GM～LGBT研修会募集案 など	オンライン
3/1	GM～LGBT研修会当日の流れ など	オンライン
3/3	北海道LGBTネット ワーク、講師との 前日打合せ ✓ 当日の進め方 ✓ グループワーク ✓ PC操作 講師と打合せ	オンライン
3/11	GM～LGBTアンケート結果、まとめ など	オンライン

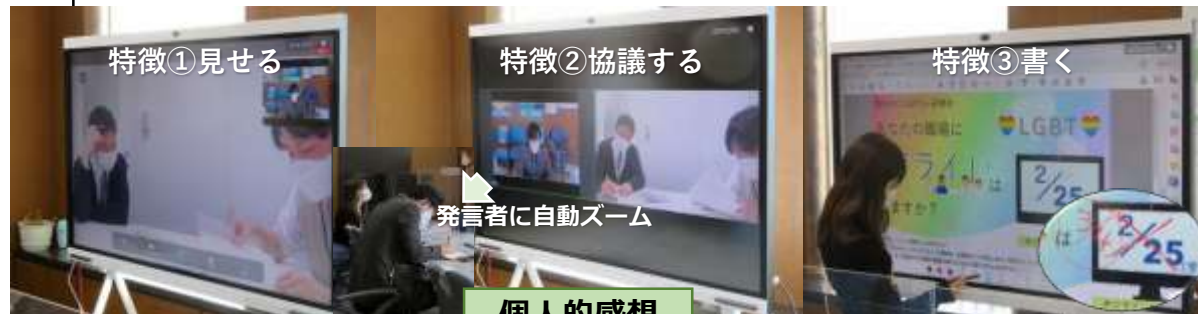
特集

○「スマートAIボード」を使って、Zoom会議を行ってみました！

スマートAIボードは、ひとことで表すと、大きなスマホとホワイトボードの合体版。

《使ってみて感じた特徴》

①見せる	パソコン画面を表示。ボード画面が大きいので見やすく、綺麗です。複数人で同時視聴・参加の際は、非常に便利。
②協議する	自動的に、発言者にズームしてくれます。
③書く	共有した画面に、直接メモを書き込み、データを議事録として残すことができます。



取組結果の考察

- 😊 職場で打合せできるため、移動時間がかからず効率的。通常業務への影響は最小限。
- 😊 集まるわけではないので、感染症対策になり、時代に即している。
- 😞 オンラインミーティングに必要な機材確保など、職場環境に左右されてしまう。
- 😞 ミーティング後など、インフォーマルなコミュニケーションが取りづらい。

個人的感想



スマートAIボードによる打合せは最高でした！
設定も難しくなく、画面が大きく綺麗で、声も鮮明に聞こえるので、オンライン会議の質も向上すると思いました。

4 活動報告 (2) 各企画の取組実績

ア 実施した企画 道×市による同志のための「WorkMashUp」

企画名の由来：MashUpという2つ以上の曲を合わせて新しい音楽を作る技法から、この事業で様々な業務(Work)の知識や経験を掛け合わせて新しい事業や手法を生み出すというねらいを表現した。

目的 ○道・市職員の人的交流と相互理解の促進及び相互に業務に関する意見交換を行いそれぞれの業務を活性化する。

取組

1 職場見学と業務説明

- (1) 意見交換を希望する所属がホストとなり、他所属から募集した職員をゲストとする。
- (2) ホストはゲストに対し、自身の職場を案内するとともに、業務内容を説明する。

2 業務に関する意見交換

- (1) ホストは所属における業務に関する課題をゲストに提示する。
- (2) ゲストは自身の経験や知識、担当外ならではの自由な発想で、提示された課題に対し意見を述べ、改善策について議論を行う。

取組により期待される効果

- 職場見学を通して、通常では知ることのできない他の地方公共団体や所属の執務環境を知ること、自身の執務環境を見直したり、良い取り組みを吸収することができる。(レイアウトや標語のポップ、打ち合わせスペースの有効活用や来客者向けの広報など)
- 業務説明を通して、通常では経験のできない他の地方公共団体や所属の業務について知識を得ることで、相互理解が深まる。
- 意見交換を通して、ホストは自身の担当業務に今までなかった知見や発想を取り入れることができる。また、ゲストもホストの担当業務における課題を共有し、課題を検討することで、自身の業務の見直しや新たな気づきを生み出すことが期待される。

実施結果

実施形式	ZOOMによるオンライン形式
ホスト	北海道総合政策部 地域創生局地域戦略課
ゲスト	みらい会議メンバー（北海道4名、札幌市4名）
実施内容	○資料を用いて係の仕事や人口減少問題について説明 ○以下の課題について意見交換 ・若年女性の転出超過の増加に対する政策について ・人口減少問題を認識した上で、どのように業務を進めるべきか。
参加者の意見	・人的交流や新たな気づきを生み出すというメリットがあるとの意見が多かった。 ・資料作成の手間や課題を共有できない所属があるなど、ホストをやりたいと考える方は半分程度であった。



今後の展望

- 参加者からの意見で人的交流として有効であることは感じることができたが、資料作成や課題の抽出が困難という意見もあったため、その課題を解決する手法を引き続き検討したい。
- みらい会議メンバー以外の所属からホストやゲストを募集しながら、効果や参加者の意見などを集約し、検証する。

4 活動報告 (2) 各企画の取組実績

イ 未実施の企画 キッチンカー招聘による事業者応援事業

目的 新型コロナウイルス感染拡大による需要低下の影響を受けている道産食材の消費拡大や飲食店支援につなげる。

取組

北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）及び札幌市役所敷地を利用し、キッチンカーによる道産食材を使用したランチメニューの販売を行う。

※新型コロナウイルス感染拡大により開催中止

「実施予定だったイベント概要」

実施期間：R4.3.7(月)～R4.3.11(金)

販売時間：11:00～14:00

販売場所：

北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）前
札幌市役所本庁舎正面玄関前

販売メニュー：

道産食材を使用したランチメニュー



進捗

R3.12	<ul style="list-style-type: none">・敷地管理者との調整（使用許可関係）・札幌市保健所への確認（営業許可関係）・札幌市消防局への確認（火気使用関係）・札幌市建設局への確認（屋外広告物関係）・募集要項・様式の作成・市役所庁内飲食店への情報提供	
R4. 1	<ul style="list-style-type: none">・事業者へのヒアリング・募集準備（HP作成、チラシ作成）	
R4. 2	新型コロナウイルス感染拡大により、開催中止の判断	

取組により期待される効果

- 道産食材のPRの場となり、消費拡大に寄与する。
- 外出自粛やイベントの中止などにより苦境に立たされている飲食店に販売の機会を提供する。
- 道民・市民の来所機会を作ることで、（マイナスイメージを持たれがちな）役所を身近に感じてもらうことができる。
- おいしい道産食材をランチで摂取することで、道及び市職員のPMの業務のモチベーションUPに貢献し、生産性が向上する。

成果

😊 実施には至らなかったものの、準備の過程では様々な関係者との調整の中で、事業の必要性の説明や関係手続の確認を行ったことで、関係法令への理解が深まったほか、みらい会議の目的の一つでもある“人的ネットワークの拡充”につながった。



4 活動報告 (2) 各企画の取組実績

イ 未実施の企画 ワークーション等による北海道市町村の応援・宣伝

目的 道内市町村の魅力を体験・発信し、特産品の販売促進や観光客増による地域の活性化を図る。

取組

○道内市町村の魅力を体験・発信

みらい会議メンバーや道・市職員がワークーション等により道内市町村の名産品やアクティビティなどを体験。その様子を撮影し動画を制作してホームページやFacebookで紹介することで、当該市町村の魅力を広く発信する。

※今年度は新型コロナウイルス感染症が収束していないこと及び活動期間が短いこと等により実現が難しいことを踏まえ、企画検討のみ実施。

取組により期待される効果

○道内市町村の経済活性化

北海道内には、179という多くの市町村が存在し、それぞれが多様な魅力・特色を有しているが、観光客やふるさと納税の偏在等による地域間格差が生じている。

これらの格差の原因の一つとして、各市町村の魅力・特色が多くの人々に十分に伝えきれていないという課題が考えられることから、みらい会議で道内市町村の魅力を広く発信することで、特産品の販売促進や観光客増など地域の活性化につながり、格差解消の一助になることが期待される。



進捗

○企画内容の検討

企画実現に向け、必要な手続きや進め方、課題等を検討

○道・市職員のワークーションに係る規定調査

職員のワークーション実施について、道・市それぞれの在宅勤務、テレワークの規定を調査・確認

○みらい会議メンバーによるワークーション体験・PR (企画のみ)

企画の予行演習として、ワークーションを実体験すべく、北海道型ワークーションの普及・展開を目的として、みらい会議メンバーがワークーションをPRする体験動画及び体験記を作成する取組を企画

※オミクロン株の感染拡大を受け、出張等が困難な状況になったことから、令和3年度は実施を見送り。



今後の展望

○新型コロナウイルスの感染状況やワークーションの普及状況等、社会動向を踏まえ、企画内容をブラッシュアップ

○今年度の実施を見送ることとなった、「みらい会議メンバーによるワークーション体験・PR業務」の実現に向け、関係課と調整を進める。

5 まとめ ～活動を振り返って～



○他の官庁・部署の方と仕事をして、刺激や気づきもあり、モチベーションが上がった。

○コロナ禍の中、時間や予算などにも制約がある中で、それをできない理由にするのではなく、その中で何ができるのかということを前向きに考えられたのは良かった。



○活動期間が長ければもっと色々な企画ができたと思う。未実施の企画もあったので、来年はもっと長い期間で活動したい。

○企画をオンラインで開催したが、オンラインを利用することで、全道の人とも繋がることができる。今後を活かしていければよいと思う。





今年度のみらい会議の取組にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。